



ユリ

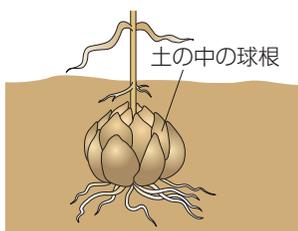


ユリは、庭などに植えられていて、(1)ごろに白色や黄色などの花をさかせているのが見られます。山や草むらなどに生えていることもあります。



ユリの花は、(2)に花粉を運んでもらう(3)です。花びらがつつ状の形をしているものもあります。

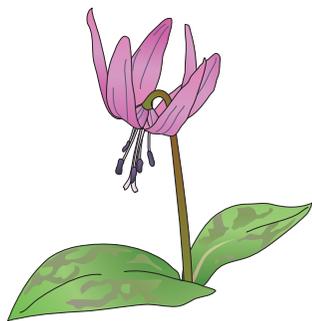
ユリはふつう、(4)でふえます。冬には地上に出ている部分はかれますが、土の中の球根が生きていて冬ごしするので、(5)とされます。



カタクリ



カタクリは、山の中の日が差しこむような場所に生えている(6)です。



カタクリは(7)で冬ごしし、(8)になると発芽して成長し、(9)の花をさかせます。花をさかせるとすぐ地上に出ている部分はかれますが、土の中にある球根は生きていて、冬ごしします。

+プラスワン

カタクリは、球根でんぷんをたくさんたくわえます。カタクリの球根から取り出されたでんぷんは「片栗粉」として料理などに利用されてきましたが、最近はカタクリではなくジャガイモから取り出されたでんぷんが片栗粉として使われています。

タマネギ



タマネギは、野菜としておもに(10)の部分が食用とされています。(11)に種子をまいて(12)に収めると、(13)に種子をまいて(14)に収めるとあります。



+プラスワン

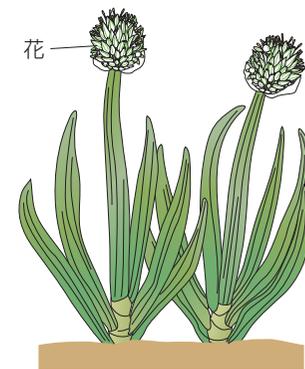
タマネギやほかのユリ科の植物の球根は、地下にあるくきに何枚もの「りんけい」といわれる厚い葉がついたものです。根ではありません。

ネギ



ネギは、野菜として(15)の部分が食用とされています。種類によって異なりますが、春に種子をまいて秋に収めると、秋に種子をまいて夏に収めるとあります。

ネギを収めずに成長させると、くきがのびて、くきの先に花をたくさんさせます。ネギの花は、小さな花が丸く集まっていることから、「ねぎぼうず」といわれます。



野菜などで、食べるのはどの部分なのかを問う問題は、入試問題でよく見られるぞ。長ネギの白い部分は葉じゃが、くきとかんちがいしやすから要注意じゃ。ほかの野菜や果物も、どの部分を食べているのか確にんしておくよいぞ。

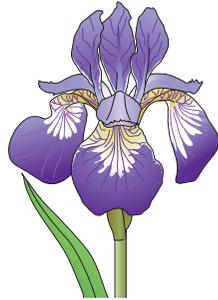
アヤメ



アヤメは、山や草むらなどに生えている(16)です。(17)ごろにむらさき色の花をさかせているのが見られます(冬にさく種類もあります)。

アヤメは、1日のうちで暗い時間の長さが一定より(18)なる(日が長くなる)とつぼみをつけて開花する(19)です。

アヤメの葉は、表側と裏側で気孔の数がほとんど同じです。



+ プラスワン

アヤメに近いなかまには、ハナショウブやカキツバタなどがあります。どれもとてもよく似ていますが、ハナショウブやカキツバタはしめった場所に生えます。

ツククサ



ツククサは、草むらや道ばたなどいろいろな場所に生えていて、(23)になると早朝に青色の花をさかせているのが見られます。

ツククサは、開花する前や花が閉じるときに(24)を行います。また、花が開いている間に(25)を行う(26)でもあります。



+ プラスワン

アサガオやイネ、ツククサのように自家受粉をすると、受粉できる可能性が高くなりますが、子孫が環境の変化に対応できず、生育できなくなる可能性も高まります。そのため、多くの植物では自家受粉をしないようしくみをもちます。

クロッカス



クロッカスは、庭や学校の花だんなどに植えられており、(20)になると黄色やむらさき色、白色の花をさかせているのが見られます。

クロッカスは、ふつうでふえます。秋に球根を植えると冬には発芽して成長し、(22)に花をさかせます。やがて葉はかれますが、土の中の球根は生きています。



+ プラスワン

クロッカスなどの球根でふえる植物では、球根の下のほうを水につけて水中に根をはらせて育てる「水さいばい」で花をさかせることがあります。

ヒガンバナ



ヒガンバナは、田んぼのあぜ道や土手などに生えていて、(27)ごろにあざやかな(28)の花をさかせているのが見られます。

夏の終わりから秋にかけて、土の中からくきがのびてその先に(29)をつけます。花がさき終わると、葉が出てきて(30)のすがたで冬ごしします。春になると葉はかれますが、(31)は生きていて、秋になるとそこからまたくきをのばします。



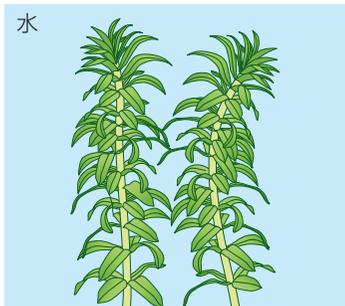
+ プラスワン

ヒガンバナは、秋の彼岸(秋分の日と、その前後3日ずつの7日間)のころに花がさくことから名づけられたといわれています。

オオカナダモ

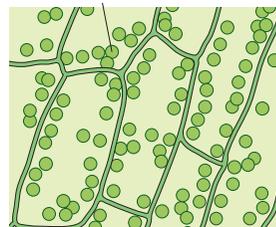


オオカナダモは、(32)で生活する植物です。(33)ですが、日本のいろいろな場所の川や湖で生育しています。キンギョなどを水そうで飼育するときなどに、水草としてよく利用されます。



ようりよくたい
葉緑体

また、オオカナダモは|つ|つの細胞が大きいので、細胞の観察によく利用されます。



オオカナダモの葉の細胞



オオカナダモは、水にとけた二酸化炭素を使って光合成を行い、酸素を出すんじゃ。また、水にとけた酸素を使って呼吸し、二酸化炭素を出すぞ。オオカナダモを使った光合成と呼吸の実験は入試問題でもよく取り上げられるんじゃ。

+ プラスワン

オオカナダモのように、キンギョの水そうなどに入れる水草をまとめて「キンギョモ」とよぶことがあります。キンギョモの花は、水によって花粉が運ばれる水ばい花です。

